

# 総合振込にかかる XML電文への移行と 金融EDIの活用に向けて

2016年12月

XML電文への移行に関する検討会

## 〈目次〉

1. はじめに	2
2. XML電文と金融EDIの拡張	4
3. 金融EDIを活用した合理化イメージ	7
4. XML電文への移行に関する検討状況	10
5. おわりに	19

# 1. はじめに

## はじめに

- 2015年12月、金融庁・金融審議会より、企業間の国内送金指図で使用する電文方式について、平成32年(2020年)までに、現「固定長電文」を廃止し、情報量や情報の互換性等に優れた「XML電文」に移行することが提言されました<sup>1</sup>。
- その後、2016年6月、「日本再興戦略2016」<sup>2</sup>においても、FinTechによる金融革新の推進として、  
” 金融高度化を推進するため、企業間の銀行送金電文を、2020年までを目途に国際標準であるXML電文に移行し、送金電文に商流情報の添付を可能とする金融EDIの実現に向けた取組を進める。また、中小企業等の生産性向上や資金効率(キャッシュコンバージョンサイクル:CCC)向上など、XML電文化の効果を最大化する観点から、産業界及び経済産業省において、金融EDIに記載する商流情報の標準化について、本年中に結論を出す。” とされました。
- これらを踏まえた具体的な対応については、2016年2月以降、金融界、産業界、システム関連事業者、金融庁等をメンバーとする「XML電文への移行に関する検討会」(事務局:全国銀行協会)において検討を進めており、また2016年12月には全国銀行協会において「金融・ITネットワークシステム」をプラットフォームとして新たに構築することを決定いたしました。本資料はこのXML電文への移行によって拡張が可能となる金融EDIのイメージ、金融EDIを活用した決済関連事務の合理化などの活用方法について、情報提供を行うことを目的に作成したものです。

<sup>1</sup> 詳細については、金融審議会「決済業務等の高度化に関するワーキング・グループ報告」をご参照ください。  
([http://www.fsa.go.jp/singi/singi\\_kinyu/tosin/20151222-2.html](http://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/tosin/20151222-2.html))

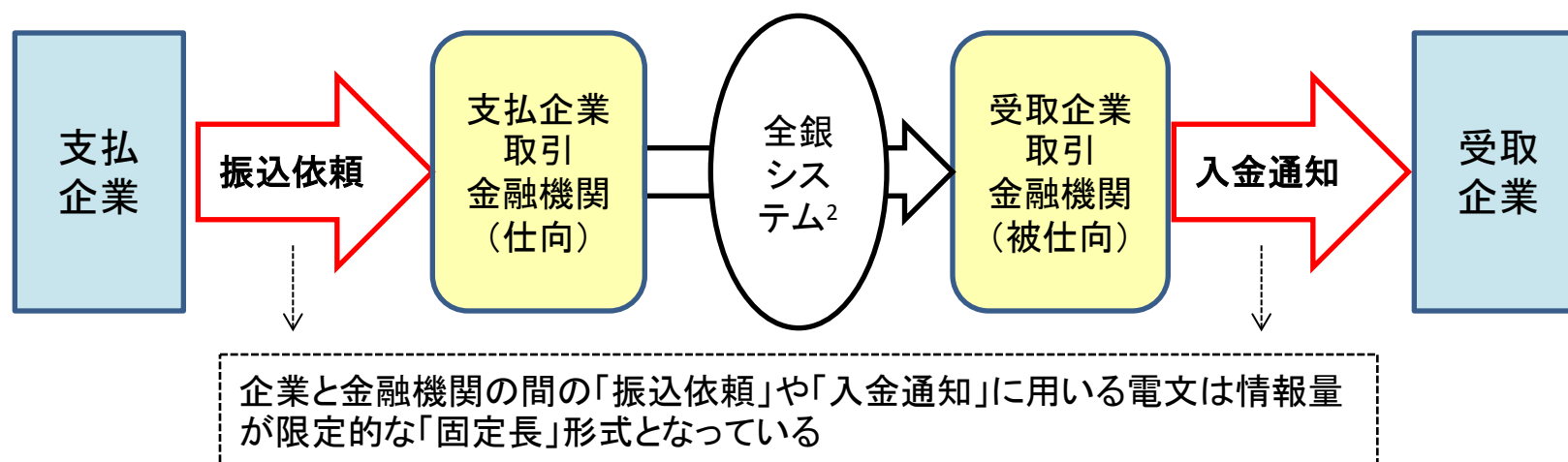
<sup>2</sup> 詳細については、日本経済再生本部「日本再興戦略2016」をご参照ください。  
(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/>)

## 2. XML電文と金融EDIの拡張

## XML電文とは

- 現在、国内送金指図は、電文の長さや情報量(例えば、EDI<sup>1</sup>情報欄は半角20桁まで)が予め定められた「固定長電文」を使用。
- これに対して、「XML(eXtensible Markup Language)電文」は、①電文の長さや、②電文上のデータの意味付け、データ間の関係を自由に設計・変更することが可能であり、金融EDI情報も拡張される。金融業務の通信メッセージに関する国際標準ISO20022でも本方式を採用。

### <現行の日本国内における振込および入金通知のイメージ>



<sup>1</sup> Electronic Data Interchange

<sup>2</sup> 「全国銀行データ通信システム」の略称: 全国の金融機関の間で内国為替の決済を行うシステム。

## XML電文を活用した金融EDIの拡張

- 現行の固定長電文では、振込データに付帯可能な「EDI情報」(受取企業に通知する振込の明細情報等)が半角20桁までとなっているが、XML電文では、当該EDI情報を大幅に拡張可能となる。
- これにより、受取企業側では売掛金の消込作業、支払企業側では振込明細に係る受取企業からの照会対応に係る業務負担の軽減が期待される。

### 現行の固定長電文のイメージ

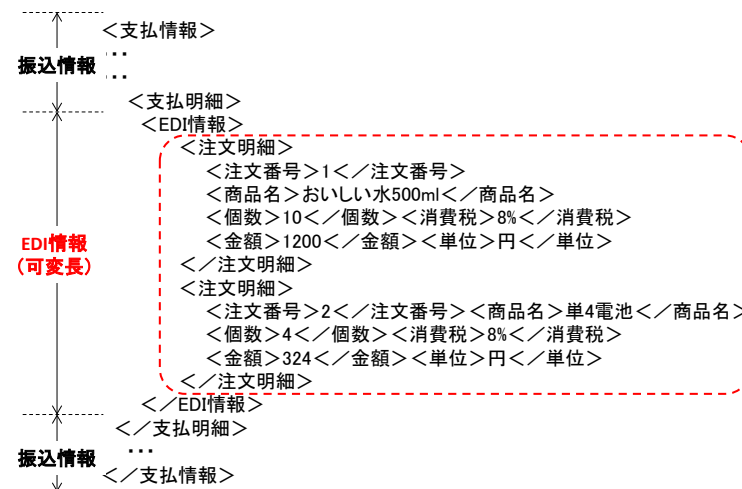
総合振込レコードフォーマット データ・レコード(計120桁、うちEDI情報20桁)

データ区分 (1桁)	銀行番号 (4桁)	被仕向銀行名 (15桁)	支店番号 (3桁)	被仕向支店名 (15桁)	手形交換所 (4桁)	預金種目 (1桁)	口座番号 (7桁)	受取人名 (30桁)
2	0123	XXXXキコウ	123	XXXXXXXXXX	4567	1	1234567	XXXXXXXXXX

振込金額 (10桁)	新規コード (1桁)	EDI情報 (20桁、固定長)	指定区分 (1桁)	識別表示 (1桁)	ダミー (7桁)
001000000	1	012345ABCDEF7アイエオカキ	7	Y	

### XML電文のイメージ



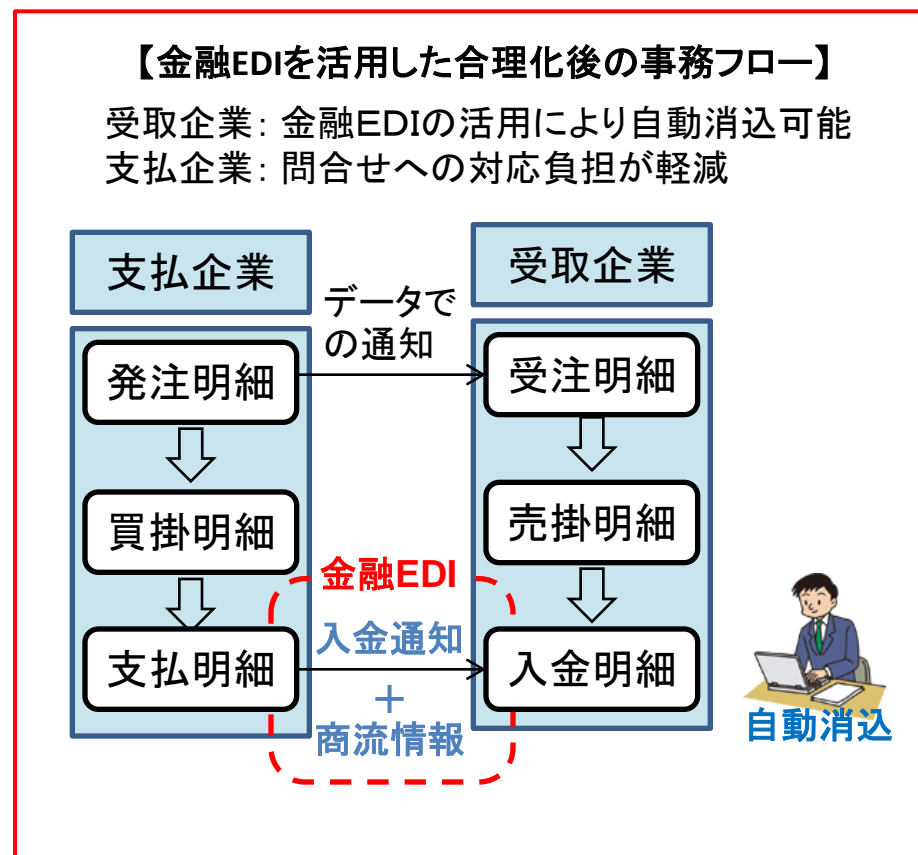
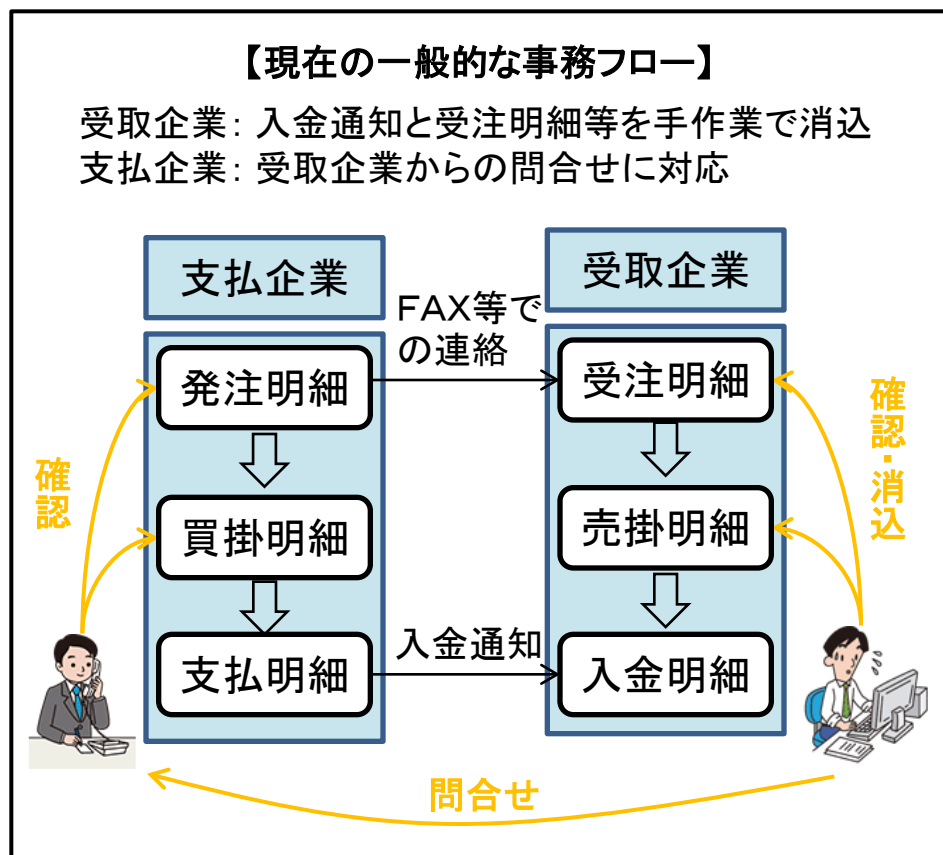
情報量が拡張された金融EDIを活用して決済関連事務の合理化などが可能に。

### 3. 金融EDIを活用した合理化イメージ



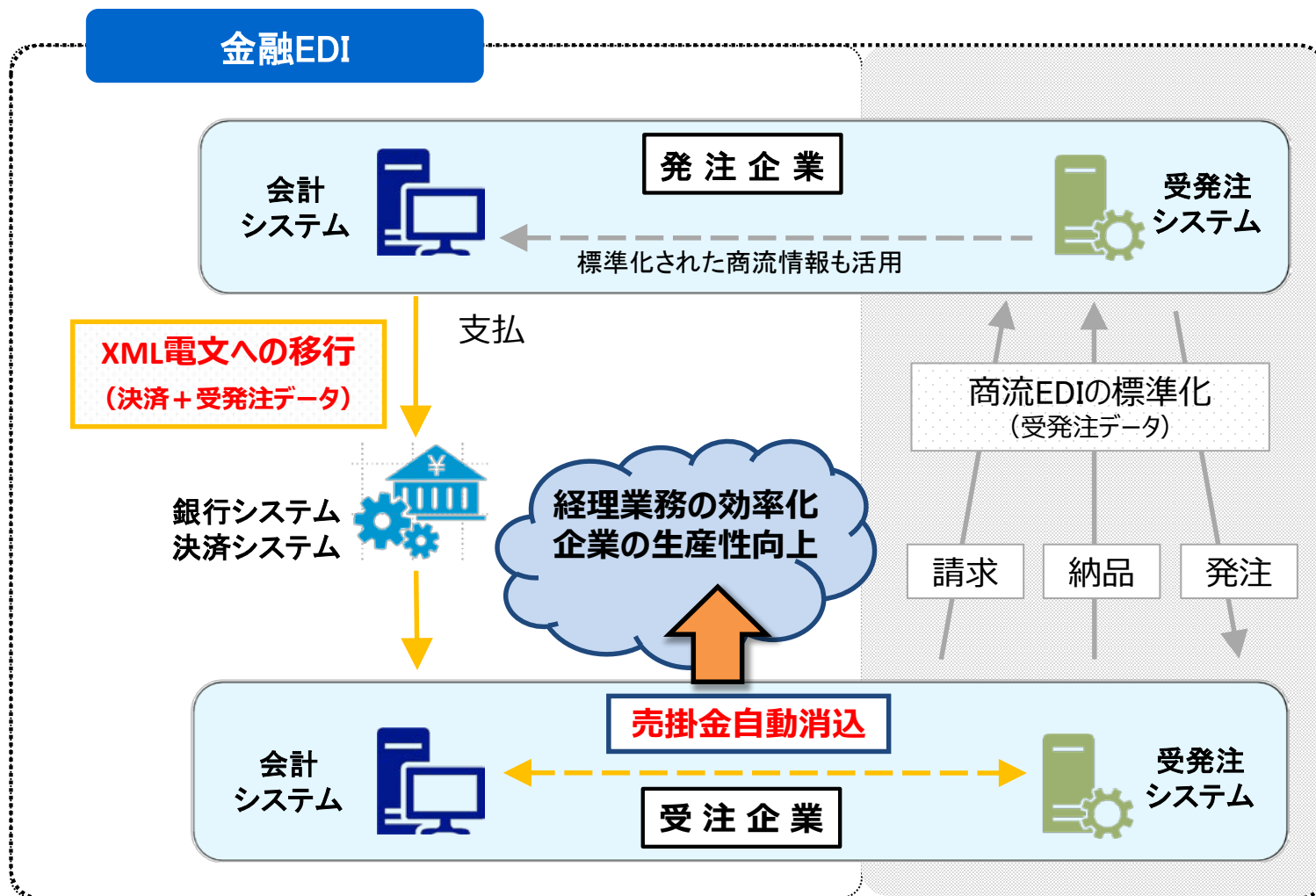
## 金融EDIを活用した決済関連事務の合理化イメージ

金融EDI情報の多様なキー情報を利用することにより、1回の振込で複数の支払明細の消込作業を行うことができる。



例えば、流通業界及び自動車部品業界における実証実験では、受取企業側において年間約400時間（中堅製造業）から約9,000時間（大手小売業）の決済関連事務の合理化効果が確認されている。

## (参考) 金融EDIによる企業の生産性向上



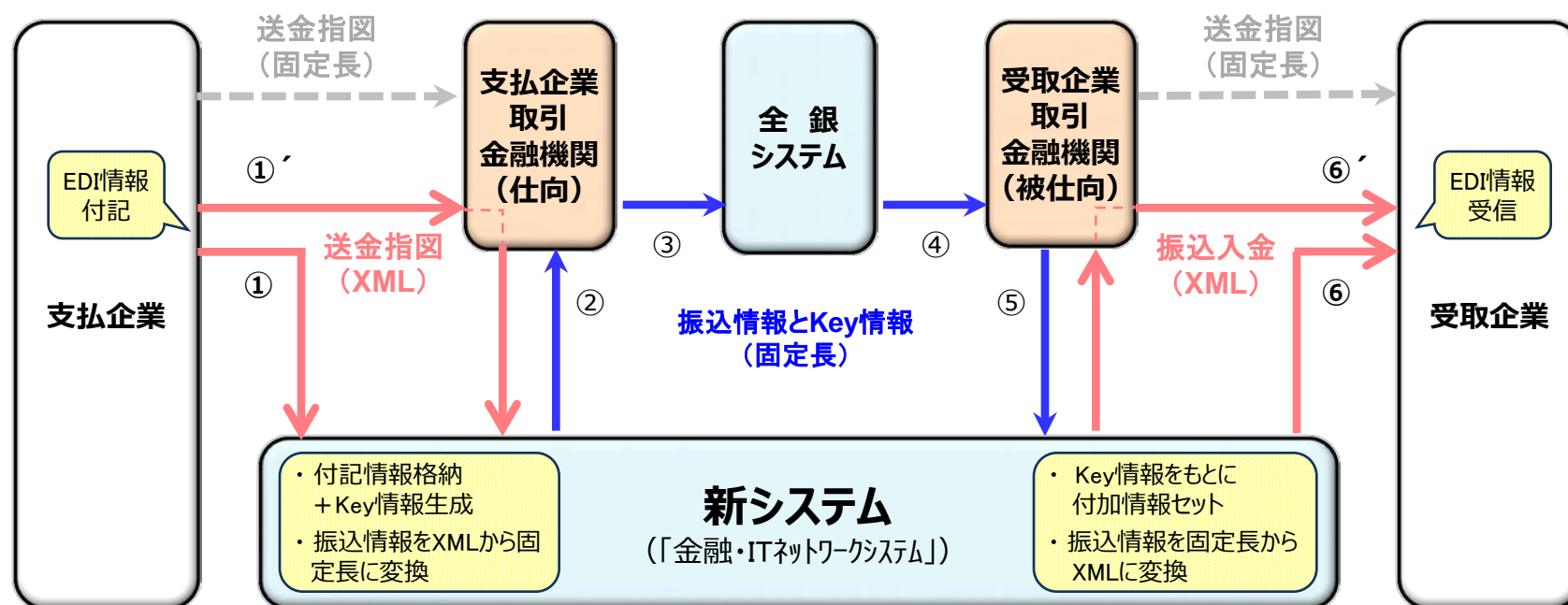
## 4. XML電文への移行に関する検討状況<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 2016年2月に設置した金融界、産業界、システム関連事業者、金融庁等をメンバーとする「XML電文への移行に関する検討会」(事務局:全銀協)における、これまでの検討状況。

## XML電文への移行スキームのイメージ

- ✓ 新システム (→ の箇所) : 2018年頃に稼働開始
- ✓ 現行の固定長電文(---→ の箇所) : 2020年を目途に廃止



※ 稼働開始時期、固定長電文の廃止時期については、必要に応じて精緻化、見直し。

※ ①'、⑥'は、個別金融機関が任意で自行システムを改修し、企業から直接(新システムを介さず)XML電文による指図を受け付ける場合。

## XML電文への移行対象となる取引(案)

基本的にはXML電文への移行効果が見込まれる大量のEDI情報の付記が可能な電子ファイルを用いた企業送金が対象。対象チャネル／サービスは、下表の項目を順次拡大していく想定。ただし、移行対象取引を利用していない中小企業、小規模事業者等でも、低事務負担、低費用負担で簡便にXML電文により拡張された金融EDIを利用できる方法も検討。

区分	チャネル／サービス		移行対象
支払企業側	一括ファイル伝送	総合振込(*1)	個別金融機関接続 ◎
			共同センター経由(*2) -
	媒体(MT等)	総合振込(*1)	-
	インターネットバンキング	総合振込(*1)	ファイルアップロード ◎
			画面入力 -
FAX振込サービス、テレフォンバンキング、ATM、窓口、等			-
受取企業側	一括ファイル伝送(*3)	振込入金通知 ◎	
		入出金明細 ◎	
	媒体(MT等)(*3)	振込入金通知 -	
		入出金明細 -	
	インターネットバンキング(*3)	振込入金通知	ファイルダウンロード ◎
		入出金明細	ファイルダウンロード ◎

\*1 給与振込、賞与振込等は対象外

\*2 複数金融機関向けの振込データを一括処理可能とするマルチバンク対応の共同センター(共同CMS<都銀等>、CNS<地銀>、SDS<第二地銀>、等)

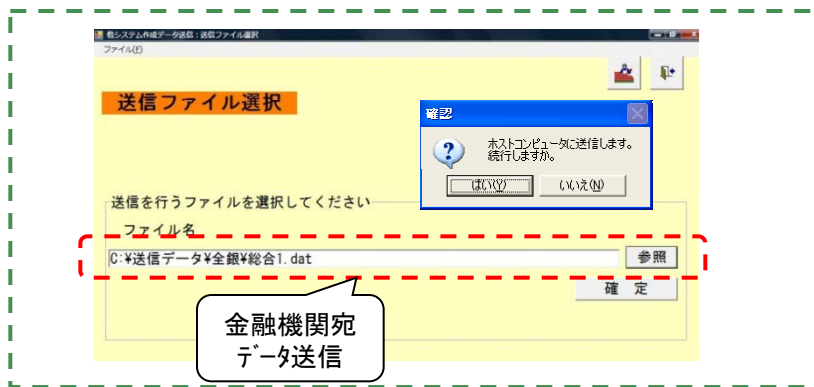
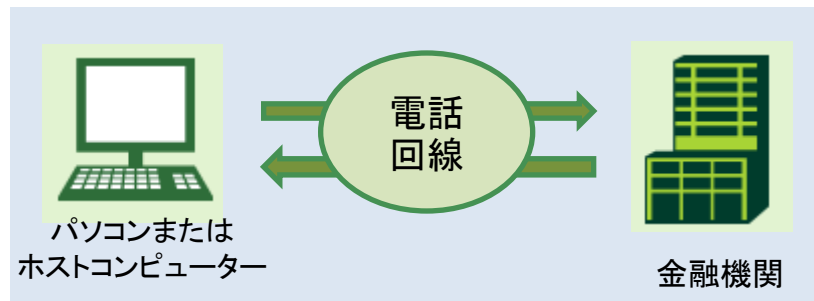
\*3 預金口座振替(結果照会)等は対象外。

## (参考1) 移行対象となる取引のイメージ①〈支払企業側〉

### 一括ファイル伝送

#### 概要

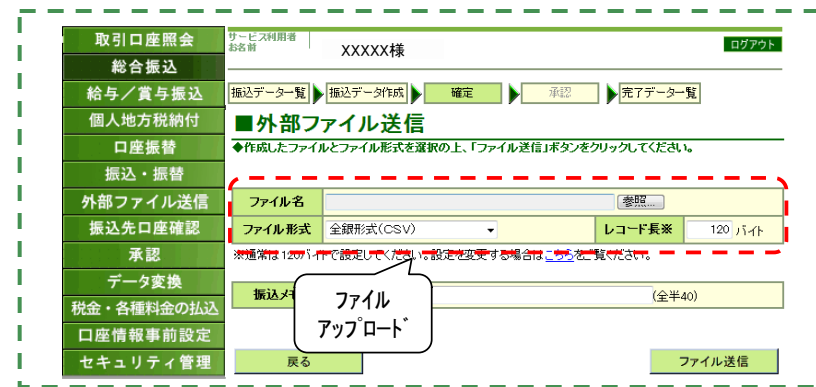
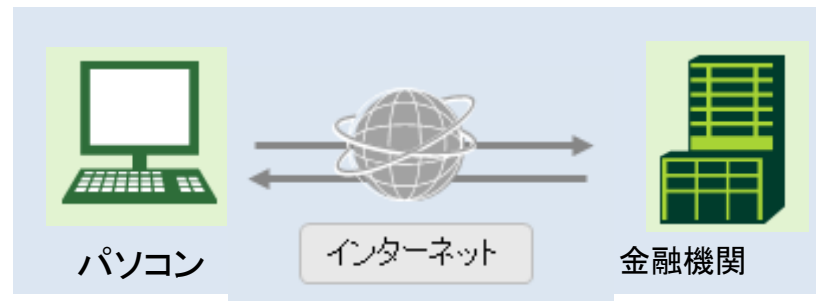
企業のホストやパソコンと銀行システムを電話回線(公衆回線等)で接続し、総合振込(複数件の振込依頼)や残高照会、入出金明細照会等を行うサービス。



### インターネットバンキング

#### 概要

企業のパソコンと銀行システムをインターネット回線で接続し、総合振込(複数件の振込依頼)や残高照会、入出金明細照会等を行うサービス。



※ 上記画面(点線枠)は支払企業側の画面イメージ

## (参考1) 移行対象となる取引のイメージ② 〈受取企業側〉

トップページへ

取引口座照会

総合振込

給与／賞与振込

個人地方税納付

口座振替

振込・振替

外部ファイル送信

振込先口座確認

承認

データ変換

税金・各種料金の払込

口座情報事前設定

セキュリティ管理

### ■ 入出金明細照会 ダウンロード未済データ

最新操作日: 2015/4/1 最新操作者:

<口座情報>

銀行	××キョウ	0009	科目	普通	口座番号	3333333
支店	アヤマ	258	口座名	××××		

出金合計	2件	600,000円	取引前残高	25,200,000円
入金合計	1件	60,000円	取引後残高	24,660,000円

<明細情報(普通/当座/貯蓄)>

総件数 3 (1-3件表示)

10件表示

50件表示

100件表示

前へ 次へ

取引日 起算日	出金金額 内他店手形	入金金額 内他店手形	取引区分	依頼人名/契約者番号 摘要	詳細 表示
27/3/24 27/3/24	200,000		現金	××××	詳細
27/3/20 27/3/20		60,000	他店券入金	××××	詳細
27/3/18 27/3/18	400,000				詳細

ファイルダウンロード

総件数 3 (1-3件表示)

10件表示

50件表示

100件表示

前へ 次へ

照会内容選択へ

照会条件設定へ

ダウンロード

帳票印刷

## (参考2) 中小企業、小規模事業者でも簡便にXML電文により拡張された金融EDIを利用できる方法の検討

※ 以下は検討中のイメージ。今後、銀行界において中小企業等と協議しつつ、実際の提供是非について検討予定。

### 振込データ作成画面 (新システムのインターネットバンキングに専用の画面入力ページを設ける場合)

受取人名	銀行名 支店名	科目	口座番号	支払金額	手数料	金融EDI情報
A商事(株)	XXXX銀行 XX支店	当座	1234567	1,000,000	当方 ▼	<a href="#">詳細</a>
B商事(株)	XXXX銀行 XX支店	普通	9876543	12,345,647	当方 ▼	<a href="#">詳細</a>
C商事(株)	XXXX銀行 XX支店	当座	2345678	987,654	先方 ▼	<a href="#">詳細</a>

#### 金融EDI情報入力画面(例) ⇒ 新システム側でタグ付のXML電文に変換

金融EDI項目は、  
産業界や経済産  
業省において、金  
融界との連携の下、  
標準化を図られる  
ことを前提に設定

請求書番号 1234567890000

支払金額 987,654

取引日 YYYYMMDD

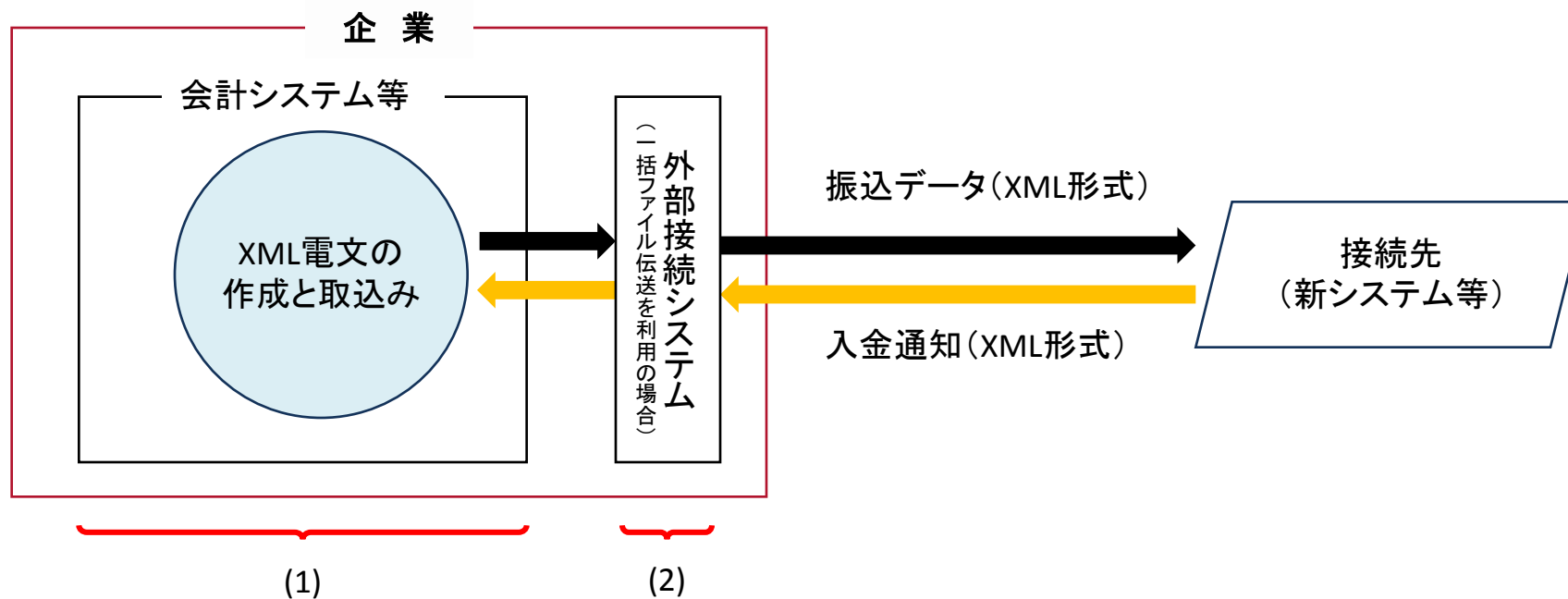
自由記載欄 XXXXXXXXXXXX



### (参考3) 移行対象サービスを利用する企業において必要となる主な対応事項

XML電文への移行時には、各企業において以下の対応が必要となる。

- (1) XML電文を利用(作成・取込)するための会計システム等のソフトウェアのバージョンアップや入替え、等
- (2) 一括ファイル伝送を利用する場合は、XML電文を送受信するための回線準備、通信ソフトウェアの設定変更、入替え(含む接続テスト)、等

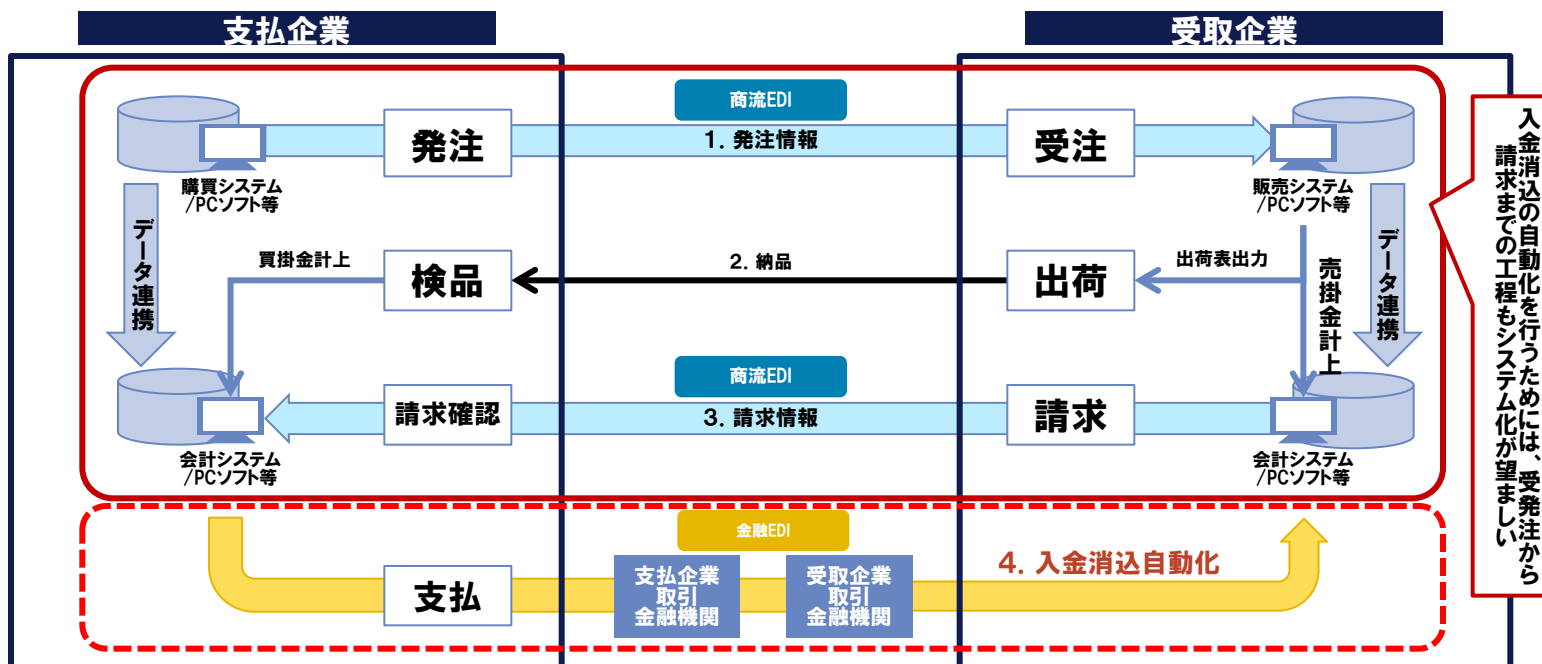


## (参考4) 金融EDIの活用に必要な主な対応事項

なお、金融EDI情報を活用して決済関連事務の合理化等を行う場合、別途、以下の対応を行うことが望ましいとされる。

- (1) 決済の上流工程で実施する企業間取引(受発注～請求等)の電子化、IT化
- (2) 会計システム等への金融EDI情報の搭載機能や同EDI情報を活用した売掛金自動消込機能の実装
- (3) 業界を跨る商流EDIフォーマットの標準化

金融EDIを活用した業務フロー(例)  
<上流工程まで電子化・IT化を行ったケース>



## (参考5)金融 EDI に記載する商流情報の標準化について

- ✓ 現在、受発注に用いる商流EDI情報は各業界において区々であり、金融EDI情報のデータ項目も各業界または受取企業毎に区々となった場合、支払企業側の入力事務負担が大きくなる可能性がある。
- ✓ このため、現在、産業界・経済産業省が中心となって銀行界と連携しつつ、業界横断的に決済関連事務の合理化に必要な「金融EDIに記載する商流情報の標準化」に係る検討や取り決めが行われている。

### (例)流通業界における実証実験(2014年度)

データ項目	桁数	形式
データ区分	1	数字
請求書番号	10	英数字
支払金額	11	数字
取引日	8	YYYYMMDD
取引部署	20	全角10文字
担当者	20	全角10文字
支払内容	36	全角18文字
合計桁数	106	-

(出典)一般財団法人流通システム開発センター

[http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/pdf/info07\\_201503.pdf](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/pdf/info07_201503.pdf)

### 「日本再興戦略2016」(抜粋)

#### 2-2.活力ある金融・資本市場の実現

##### (1)新たに講ずべき具体的施策

##### ii) FinTechを巡る戦略的対応

##### ①FinTechによる金融革新の推進

金融高度化を推進するため、企業間の銀行送金電文を、2020年までを目途に国際標準であるXML電文に移行し、送金電文に商流情報の添付を可能とする金融EDIの実現に向けた取組を進める。また、中小企業等の生産性向上や資金効率(キャッシュコンバージョンサイクル:CCC)向上など、XML電文化の効果を最大化する観点から、産業界及び経済産業省において、金融EDIに記載する商流情報の標準化について、本年中に結論を出す。

## 5. おわりに

## おわりに

2016年12月に全国銀行協会において新システムの構築を決定いたしました。今後も、「XML電文への移行に関する検討会」は継続して設置し、関係者のご意見等を踏まえ、引き続き新システム構築に向けた取組みを進めて参ります。

システムに係る仕様案を検討

夏頃

開発・運営コストの見積もり等を実施

2016年  
10-11月

「XML電文への移行に関する検討会」(以下、「XML検討会」)を開催  
＜金融界、産業界、システム関連事業者、金融庁等がメンバー＞

- ・ システム仕様案や企業等が費用対効果の検証に必要な費用負担イメージを提示
- ・ 企業等の決済関連事務の合理化に必要な金融EDIの取組みを継続することを合意

12月

XML検討会での検討結果等を踏まえ、銀行界としての方針を決定

2018年  
(予定)

新システムの稼働開始

企業間送金について固定長電文を廃止、XML電文に移行(2020年を目途)

# XML電文への移行に関する検討会

【事務局】一般社団法人 全国銀行協会

※ 本資料に関する照会先 [xml.kentokai@zenginkyo.or.jp](mailto:xml.kentokai@zenginkyo.or.jp)